



変わる公立高校推薦入試の今



鹿児島県の高校入試では、令和7年度から「自己推薦制度」が導入されています。これは中学生一人ひとりの個性や努力をより多面的に評価するための仕組みです。

これまでの入試は、おもに学力検査（テスト）の点数や調査書（内申書）によって可否が判断されてきました。しかし「自己推薦制度」ではそれに加えて、中学生自身が自分の強みや挑戦してきたことを直接アピールすることができます。

学習面での努力や成果、部活動や校外におけるクラブ活動・生徒会活動・ボランティア活動・趣味や特技といった実績を、自身の将来の目標と照らし合わせて、進学したい高校に自分自身を推薦することができます。選抜の方法は学校によって異なりますが、調査書・推薦書（志望理由書）・面接（プレゼンテーションなど）、作文・実技・適性検査などを用いて総合的に判定されます。

今年3月に行われた鹿児島県公立高校推薦入学者選抜では、611人の生徒が学校推薦方式、681人の生徒が自己推薦方式で推薦入試に挑みました。

自己推薦制度

在席する中学校からの推薦が不要となります。



子ども達が小・中学校で頑張ってきた成果や長所を生かした積極的な出願が可能となります。

例) 習い事や資格取得など、学校外での生徒の幅広い活動も生かされます。



各学校が掲げるアドミッションポリシーを基に受験生を評価します。

※アドミッションポリシーとは、入学者受け入れ方針や基準のことです



どうしてこの制度ができたの？

社会の変化が激しい今、これからの高校生には自ら考え、挑戦し地域や社会で力を発揮する姿勢が求められています。そこで鹿児島県では学力だけでなく多様な力を持つ生徒を受け入れるために、この制度が始まりました。



この制度の意義って何？

テストの点数だけでは見えにくい「努力」や「個性」を評価でき、子ども達の可能性を広げることができます。また自分の歩みを振り返り、言葉で表現する経験は将来の進路選択や社会で生きる力につながります。さらに地域での活動やボランティア経験も評価対象となるため、地域ぐるみで子どもを育てるきっかけになります。

小・中学生の段階から、自分の特徴や長所をもとに「どんな大人になりたいか」「社会のために何ができるか」を

親子で一緒に考えたり、子どもの特徴やよさをさらに伸ばすために「今、何をしなければならないのか」「そのためにどの高校に進学すればよいのか」を親子で話したりすることはとても重要です。

地域の子子ども達が、この制度を通して自分の良さを発見し、新しい一歩を踏み出していきます。子ども達の挑戦を支え、温かく応援していただきますようお願いいたします。